

おおくら

議会だより



がんばれ!!
大蔵村の希望の星!!

関連記事はP16

もくじ

3月・5月臨時議会・6月定例会	2～3P
一般質問	3～8P
委員会報告	9～12P
小学6年生議会傍聴の感想	13～15P
村民インタビュー !!	16P

おかえり、
なりわい灯す きよなる里

第 **148** 号

2026.夏

発行／
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地
大蔵村議会 0233-75-2111
編集／議会広報常任委員会 年4回発行
発行責任者／議長 佐藤 勝
印刷／共栄印刷株式会社

議長・副議長・議員 一律 2万円プラス

議員報酬決定!!

3月臨時会

令和8年3月25日に令和8年第2回臨時議会を招集した。役場新庁舎建設工事（債務負担行為）請負契約の一部変更について1件を審査し可決した。

質疑応答

・大蔵村役場新庁舎建設工事（債務負担行為）請負契約の一部変更
問 今回の契約変更で、新庁舎建設に非常用発電機を新規に設置することになったが、その経緯は。
答 当初は既存設備を移設し活用する予定だったが、検討の結果、既存設備は、数年で耐用年限がくるため新しい発電機を設置することとした。

・非常用発電機の耐用年数はどの程度か。
答 耐用年数は15年で、現在の既存設備は2015年に導入されたものである。

・災害時には、どのくらいの期間運転できるのか。
答 72時間の連続運転を想定した仕様となっており、燃料を供給することで継続して使用できる。また、LPG（液化石油ガス）にも対応している。

・令和7年度一般会計補正予算案、令和8年度補正予算案を加えた計21議案を審議し可決。先に行われた一般質問では5人が村当局の考えをただし、活発な議論が交わされた。

6月定例会

6月定例会が6月4日から5日にかけて開催され、新年度予算案、令和8年度補正予算案を加えた計21議案を審議し可決。先に行われた一般質問では5人が村当局の考えをただし、活発な議論が交わされた。

・村職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例
問 村職員の夏季休暇について、連続して取得できる期間が長くなったが、窓口業務などに支障が出ないよう、引き継ぎを徹底すべきではないか。
答 業務に支障が生じないよう、休暇を取る職員が適切な引き継ぎを行うよう指導していく。

・スクールバス（29人乗り）の購入契約
問 29人乗リスクールバスを更新し購入するようだが、児童・生徒数が減少する中で大き過ぎるのではないか。
答 今後も計画的に更新を進めるが、利用人数を踏まえ、将来的には車両の小型化も検討していく。

・排水ポンプ車購入事業（明許繰越）契約の一部変更
問 搭載する水中ポンプの仕様を変更した経緯は何か。

5月臨時会

令和8年5月14日に令和8年第3回臨時議会を招集した。令和7年度専決予算の承認9件、令和8年度補正予算の審議1件、工事請負契約の一部変更について審査し可決した。

質疑応答

・大蔵村税条例の一部を改正する条例の専決
問 軽自動車税のうち「環境性能割」が廃止になるといふことだが、廃止された経緯はどのようなことか。
答 「環境性能割」は、自動車の取得時に課税されていたもので、国の税制改正による。減収となる税収分については国から補填される。

・大蔵村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の専決
問 子ども・子育て支援金の負担額について、一般的な世帯では、年間どの程度の負担増となるのか。
答 平均所得約350万円の4人世帯（夫婦、18歳以下子ども2人）の場合、年間約1,400円の負担増となる。なお、18歳未満の子どもには軽減措置が設けられている。

・令和7年度一般会計補正予算案の専決
問 当初は、吸水する水位を100センチと想定していたが、より低い8センチ程度の超低水位でも使用可能な仕様に変更した。
答 一般会計補正予算案、大蔵村花火大会負担金について、花火大会への50万円の増額補正の内容は何か。
答 キリンビール株式会社の「晴れ風ACTION」による寄付金事業の対象となったもので、音響機材の更新等の費用に充てる。

・スキー場施設の修繕について、修繕費の増額はどのような内容か。
答 庄雪車の故障により、4月に多く修繕費がかかった。今後も修繕費が見込まれるため増額したもの。

・ロープトウ（ロープリフト）の安全管理はどのように行っているのか。
答 毎年、必要な点検と修理を実施し安全な運行に努めている。

人事案件

・農業委員会委員の任命に同意
山下 佳子 氏（赤松）再任
長瀬 あゆみ 氏（上竹野）新任
安彦 和樹 氏（作之巻）新任
矢口 貴之 氏（熊高）新任
高橋 春香 氏（大坪）新任
中島 俊一 氏（沼の台）新任
佐藤 繁榮 氏（白須賀）再任

・村営バス事業費の運転業務委託料について、1000万円を超える減額であるが、その理由は何か。
答 例年であるが、地域間幹線系統確保維持費補助金を直接事業者が国（国土交通省）・県から受け、その分を委託料から差引くため。

・一般管理費の職員健診委託料について、この委託料は、過大な予算計上ではなかったか。
答 会計年度職員も含め全職員の分を、基本健診と全ての選択項目分も含め計上している。予算執行状況に留意しながら適切に対応していく。

・高齢者排雪支援事業について、ひとり暮らし高齢者等除雪扶助費の残額が多く、過大な予算計上ではないか。
答 豪雪対策本部の設置後、予算計上したもので、その後の大雪を想定したためであり、3月中旬まで申請期間であった。

・定期予防接種委託料について、減額幅が大きい理由は何か。また、減額補正するよりも接種を促す取り組みを行うべきではないか。
答 コロナワクチン接種者数が当初の見込みを大きく下回ったことによるものである。接種促進については、今後も周知に努めていく。

・令和7年度一般会計補正予算案の専決
問 当初の見込みを大きく下回ったことによるものである。接種促進については、今後も周知に努めていく。

・村道熊高桂線道路災害復旧工事請負契約の一部変更
問 請負額が大幅に増額されているが、工事は今年度中に完了することができるのか。
答 工期内に完了する見込みだが、繰越事業であるため、できる限り早期に完了できるように進めていきたい。



一般質問 6月 定例議会

村政を問う

5議員が一般質問

4P 早坂 民奈 議員

○新庁舎のお披露目と活用は

5P 伊藤 貴之 議員

○新庁舎移転後の旧庁舎の利活用について

6P 須藤 敏彦 議員

○消防団の持続可能な体制整備と新庁舎への消防ポンプ積載車配備について

7P 佐藤 雅之 議員

○村営バス清水停留所の待合施設の再整備を
○クーリングシェルター、いっそうの有効活用を

8P や 八 信一 議員

○村歴史資料の常設展示
○元赤松小学校の記念碑建立

大蔵小6年のみんなや生協のお母さん方などたくさんの方が傍聴に来てくれたよ。お昼には一緒にご飯を食べながら、お話をしてくれた方もいたし、村民の方が村への興味が高まってきてよううれしいな。ほかの皆さんも、一度傍聴に来てみてくださいね。(おおくらくんより)

一般質問とは？ 村政全般に対し議員が質問し、意見を述べ村政をたどっていくので、大蔵村では1議員の持ち時間が45分です。



はやかわ
早坂 民奈 議員

新庁舎のお披露目と活用は 村長 居心地の良い共想の場と して機能を目指す

問 新庁舎も来春開庁に向けて順調に工事が進んでいる。図面では想像出来にくいですが、形が見え始めると期待も増してくる。さて、庁舎完成のお披露目についてだが、特別なイベントは考えているのか。昔の「嫁入り行列」（むかさり）を行ってはの声を頂き、担当課にも提案したことがある。村民の新婚カップルに参加していただければ本人のみならず、知らない若い方達にも記憶に残るのではないかと。次にブックカフェや中

答 中央公民館との合築で、今まで2か所で行っていた会議等も1か所でき、これからの村のイベント等が活発に行われるのではないかと。閲覧だけのブックカフェではなく、図書館機能をフル活用し、読み聞かせや人を呼び寄せる考えはあるのか。議場も多目的に利用出来るのでその活用法と土日祝日の開庁はどうか、また、以前質問した、特産品の展示についても伺いたい。

答 計画通り11月末の完成に向けて工事も進んでいる。

る。12月21日に竣工式典を計画し、村民の皆様には内覧会を開く。年明け令和9年1月4日に開庁式を行う予定である。竣工式典や開庁式の内容は今後子ども達からの参加も検討している。「嫁入り行列」は困難である。イベントについては意見を聞きながら検討していく。ブックカフェは図書館機能と地域交流の拠点として、日常における家庭や学校、職場とはまた別の、居心地の良い「第三の居場所」として親しまれ、新しい価値を生み出す共想の場としての機能を目指す。立ち寄りたくなる、心地よい空間づくりとして、読み聞かせや、季節やテーマに合わせた企画展や情報発信、少数でのワークショップなどを展開していきたいと考えている。特産品の展示箇所については利用状況を考慮し、利用しやすい環境を整備し検討していく。

問 「嫁入り行列」は困難とあるが、いつの日か企画検討していただきたい。又内覧会は、一日だけなのか、見学ツアーを何回かしてみようか。

答 「嫁入り行列」は初めての事なので、個人に関わることもあり、いろんな問題があり難しい。内覧会は村主催としては12月21日の1回と考えているが、尚検討する。

問 庁内の施設を借りる場合の管轄はどこか。教育委員会が総務課か。外部の方は分かりにくいので一本化してほしい。又、土日祝日の開庁は。

答 今まで通り公民館の施設は教育委員会の管轄だが、統括出来る部署については今後検討の価値がある。土日祝日の開庁は、管理人が在庁する午前8時半～17時までを原則にしたい。



いとう
伊藤 貴之 議員

新庁舎移転後の旧庁舎等の 利活用について 村長 既存施設を最低限の改修 で活用していく

問 新庁舎は今年11月末の完成予定で工事が進められている。一方で、役場移転後の旧庁舎の利活用については具体的な方針が示されていない。旧庁舎の利活用や解体を含めた基本方針、第2・第3庁舎など公共施設の今後の取り扱いについて伺う。

答 耐震性のない東庁舎は解体する方針であり、令和8年度当初予算に解体設計費を計上した。西庁舎は一部改修が必要となる可能性

はあるものの、活用価値があると考えている。商工会や土地改良区と協議しながら事務所としての活用を想定しているが、利用が見込めない場合は解体も選択肢として残している。第2庁舎は当面スクールバス車庫として利用し、第3庁舎は現在利用している土地改良区との調整後に解体する考えである。

問 旧庁舎を維持する限り、管理費や借地料などの経費が発生し続ける。また、解

体費も年々高騰しており、判断が遅れるほど将来の財政負担が増すと考える。村として、いつ頃までに方向性を示す考えなのか。

答 施設のあり方は簡単に結論を出せるものではなく、数年をかけて検討する事例も多い。使える施設はできるだけ有効活用する考えであり、診療所についても将来的な移転構想はあるものの、現時点で具体的な時期は定まっていない。

問 商工会と土地改良区は地域経済や農業振興を支える重要な団体であり、新庁舎周辺への機能集約も考えられるのではないかと。

答 西庁舎を両団体が活用することに大きな支障はないと考えている。創意工夫により課題を解決し、既存施設を有効活用したい。

問 中央公民館には学童保育が入っているが、教育委員会が移転すると学童のみが残ることになる。少子化

を見据えた施設の適正配置についての考えを伺う。

答 保育所や学校施設の老朽化も踏まえ、将来的には保育所と学童保育を組み合わせた新たな施設整備を検討していきたいと考えている。

問 今後の施設整備を検討する上では、利活用や解体、新施設建設など、それぞれの事業費や維持管理費を試算し、村民に示すことが重要ではないか。

答 建設費や解体費は社会情勢によって大きく変動するため、現段階で金額を伴う長期計画を示すことは難しい。まずは新庁舎整備を最優先とし、その後、旧施設の利活用を中心に検討を進めたい。また、商工会や土地改良区も含め、既存施設を最低限の改修で活用していくことが、村民の理解を得られる現実的な方策であると考えている。



中央公民館



役場庁舎



須藤 敏彦 議員

新庁舎への消防ポンプ積載車 配備について

村長 消防団と協議し、対応する

問 消防団は、地域住民の生命と財産を守る重要な組織として、長年にわたり地域防災の中心的役割を担ってきた。しかし、近年は人口減少や少子高齢化、若年層の村外就業の増加により、消防団を取り巻く環境は大きく変化している。特に平日日中は、村内に消防団員が少なく、火災や災害発生時の初動体制に不安を感じている。

平成28年に団員減少への対応として、7分団制から4分団制へ再編を行い、副

分団長制度を新設するなど体制強化を図った。また、平成30年には通常消防団を補完する目的で機能別消防団を創設し、地域防災力の維持に努めてきた。その後の人口減少は当時の想定を上回る速度で進み、現在では消防団員が不在、あるいは極端に少ない地区も見受けられるなど、当初想定していた体制との乖離が生じている。

また、機能別消防団についても、創設時の目的どおり十分機能しているのか、

訓練や出動実績を含めた検証が必要であると考えている。

答 平成17年までは、350人を超える消防団員だったが、平成27年には消防団員の人数が270人と減少しており、平成28年には、7分団制から4分団制への再編を余儀なくされたところである。令和8年度に至っては、減少に歯止めがかからない状況となっている。しかし、消防団は、村民の生命や財産を守るための重要な役割を担っており、その活動は、消防団をはじめとする村民皆で取り組んでいかなければならない重要な活動であると認識している。

機能別消防団は、令和8年6月1日現在、79名在籍しており、機能別消防団が発足した平成30年の在籍人数が55名だったため、村民の消防団への意識は高くなっているものと思われる。地域によっては機能別消

防団が不足している地域もあり、喫緊の課題であると認識している。また、各分団にお願いをして、各部で機能別を含めた講習、訓練をお願いしていく。

問 令和9年開庁予定の新庁舎を村の防災拠点と位置づけ、消防ポンプ積載車を常備し、職員も初動対応できる体制を整備する考えはないか。消防団の持続可能な将来像について、村長の所見を伺う。

答 火災が休日や夜間といった場合だと各地域の消防団で出動した方が初期消火は早い。平日の昼間で役場周辺であれば庁舎内に消防団員が揃っているため、新庁舎に配備した積載車で迅速に初期消火を行うことが可能かと思う。しかし、様々な事情を踏まえると出動によって本来所属している地元の部が手薄になる、出動できなくなるリスクもある。地域防災の核で



建設中の役場新庁舎

ある消防団と役場の機能を共倒れさせないために、「平日昼間の初期消火に限定する」等、いろいろな場合を想定した綿密なコミュニケーションを行い、消防団と協議し、理解をいただいて組織、そしてポンプ車を置く場所も確保しながら対応していきたい。



村営バス清水停留所の 待合施設の再設置を

村長 安全な場所を確保できれば今後検討する



佐藤 雅之 議員

適当な設置場所を確保できていない。この間スクールバスの充実や少子化等により利用者は設置当時より大幅に減少している。一方で、診療所利用者や高齢者にとって待合施設の必要性は十分認識している。今後、安全な場所が確保できた場合には、利用実態や費用対効果を踏まえ、規模を縮小した施設も含め検討する。

クーリングシエルター、 いっそうの有効活用を

村長 できることは柔軟に対応してゆく

問 昨年度から村内4施設で運用が始まったクーリングシエルターについて、熱中症特別警戒アラート発令時だけでなく早めの開放を行うこと、運用開始時期の前倒し、休日対応、移動困難者への支援、分かりやすい愛称や広報の工夫など、利用促進策を求める。

答 村内4か所を指定し運用している。各施設は休館日以外の勤務時間内で利用可能であり、暑さを感じた場合には利用してほしい。運用期間は4月22日から10月21日までとしており、熱中症特別警戒アラート発令時には防災情報システム「くらっち」等で周知する。休日開放は勤務体制上困難。

移動困難者については近隣住民の協力をお願いしたい。また、名称は全国共通の「クーリングシエルター」を継続使用し、今後も広報の充実に努める。

問 熱中症特別警戒アラート発令前からの利用や、新庁舎開庁後の「ブックカフェ」でのクーリングシエルターの休日利用など、もっと柔軟に運用ができないか。

答 村としてできることは柔軟に対応していく。

問 清水停留所の待合施設は、診療所利用者や高齢者のため長年利用されてきたが、土地所有者の土地利用に伴い撤去された。役場新庁舎移転後も診療所利用者を中心に一定の利用が見込まれ、夏の猛暑や冬の豪雪の中、屋外で待つことは大きな負担となる、待合施設の再設置について村長の考えは。



清水停留所

「くらっち」等で周知する。休日開放は勤務体制上困難。



八鍬 信一 議員

村歴史資料の常設展示

村長 歴史文化を継承すること
は大変重要
教育長 テーマごとに期間限定し
企画展示

問 大蔵村には「清水城」と言う歴史的文化的資産があり、それらの資料が村中央公民館の他いろいろな場所に拡散している。時が経てば損傷・紛失消滅してしまふことが懸念される。

答 村長「清水城跡」は平成23年に県指定文化財となった。その後7代城主「大蔵大輔義親」没後記念事業に村内外から多数の参加者があり、清水城への関心の深さを感じたところである。大蔵村は最上川舟運・永松鉱山・大蔵鉱山等の産業遺産、縄文弥生期遺跡・清水城址跡など後世に伝えるべき歴史的史実を多く有する。

これらの保存を図り、将来に受け継いでいく事が私達の務めであると考えている。

教育長 現在中央公民館には、「清水城」資料その他貴重な資料が、2階ロビーに可能な限り展示している。新庁舎の「ブックカフェ」室内の常設展示については、スペースの課題がある。しかし、テーマによる期間設定した企画展示することなど、村民に村の歴史や文化資料を縦覧する機会を検討していきたい。

山形県は、「山形藩主 最上義光」を主人公とするNHK大河ドラマの誘致活動を積極的に行っている。吉村知事は、2030年の放送開始を目標とした要望書を本年4月にNHKへ直接提出した。実現すれば関連する大蔵村「清水城」も話題となり村の活性化に繋がることから、今からあらゆる資料を精査する必要がある。

問 平成18年4月の小学校3校統合について村との覚書があり、その要項に「記念碑の建立」と学校の「歴史的資料の保存展示」とあるが、旧赤松小学校については未だに整備されていない。

答 村長 大蔵小・赤松小・南山小3校統合当時の覚書にある「記念碑と資料展示」の件ですが、記念碑については、村と学区民代表が協議し予算内での計画とされている。

今後学区の方との話し合いで検討したい。

教育長 赤松小統合時の覚書にある「歴史的資料の保存展示」について、赤松生涯学習センター階多目的ホールに石器や土器・地域貢献者紹介・書籍等展示している。スペースが限られており資料のすべてを展示出来てはいない。

2・3階の空き室等も精査したが目的別に使用されており現在多目的ホール以外難しい状況にある。よって多目的ホールの展示内容の入替・企画展・特別展などで旧赤松小の歴史資料を紹介したい。

旧赤松小学校の記念碑建立と展示

村長 学区民代表と協議し検討
教育長 ホールの展示内容入替で紹介

委員会報告

総務文教常任委員会

委員長 須藤 敏彦

一遊佐町の地域おこし協力隊の取り組みについて

総務文教常任委員会は令和8年5月13日、地域おこし協力隊の導入と定住支援の先進地である遊佐町を視察した。同町は平成22年度から累計38名を受け入れ、約60%という高い定住率を誇る。

調査では、地域の課題解決を目的とした「ミッション型」への募集転換や、高校魅力化、高齢者向けスマホ道場などの具体的な活動状況を確認した。特筆すべきは、隊員を孤立させない手厚い伴走体制だ。週1回の面談で方向性を共有するほか、灯油の買い方や雪道運転、近所付き合いのコツといった「田舎暮らしのノウハウ」を職員が丁寧に指導している。また、採用前の「カジュアル面談」で町との相性を慎重に見極め、ミスマッチやSNS上のトラブルを未然に防ぐリスク管理も徹底されていた。

退任後の支援も強力で、2年間の家賃補助や

起業支援金が定着を後押ししている。今回の視察を通じ、協力隊は単なる労働力ではなく、地域に「新たな風を吹き込むパートナー」であると再認識した。本村においても、隊員の「暮らし」を支え、退任後の生活までを見据えた息の長い支援制度の検討が必要である。



地域おこし協力隊活動報告に参加して

去る4月16日に肘折温泉で行われた、地域おこし協力隊員である佐竹未知隊員の活動報告を拝聴し、この一年間の活動内容について報告を受けた。

佐竹隊員は、もともと「プチ湯治」の客として何度も肘折温泉を訪れるほど、この地域に魅了されていたという。令和7年4月に福島県から移住し、観光客の減少や担い手不足といった地域課題を実感する中で、「大好きだからこそ。外からの視点で力になりたい」との思いを胸に、地域おこし協力隊として活動を開始した。

この一年は、「初心（客の目線）を忘れない」という姿勢を大切にしながら活動してきた。SNSでは、自身が湯治客だった頃に知りたかった「旬の山菜やきのこ」など、観光客目線の情報発信に努めていた。また、夜市での営業時間延長の提案や、湯治部屋で地酒を楽しむイベント「みっちゃんと呑もう」の企画など、夜の温

泉街に新たな賑わいを生み出す取り組みも行っていった。さらに、「さんげさんげ」や「ひじおりの灯」といった地域の伝統行事にも積極的に参加し、地域住民との絆を深めている様子がうかがえた。

令和8年度は、湯治客が「一息つける場所が欲しい」という自身の実感をもとに、いでゆ館での期間限定カフェの開設に挑戦し、滞在時間の延長と地域内消費の拡大を目指すとのことであり、その成果が期待される。

今回の報告を通じ、佐竹隊員が大蔵村の人の温かさや食の豊かさに支えられながら地域に溶け込み、新しい視点で肘折温泉と大蔵村の魅力向上に取り組んでいる姿勢を強く感じた。今後も、お客様が「また来たい」と思っただけの村づくりに挑戦していくことを期待するとともに、総務文教常任委員会としても、引き続き活動を注視し、必要な支援を行っていくものである。

産業建設常任委員会

委員長 佐藤 雅之

福島県いわき市大利地区の 地すべり対策事業を視察

大蔵村議会産業建設常任委員会は、令和8年3月10日、福島県いわき市大利（おおり）地区の地すべり対策事業を視察しました。加藤正美村長も同行し、福島県いわき建設事務所企画調査課吉田氏、管理課阿部課長らから説明を受けました。

大利地区では、大正時代から地すべり活動の記録があり、昭和34年に地すべり防止区域へ指定されました。福島県事業として、集水井、横ボーリング、水路工、排水施設などの整備が進められ、現在も地すべり自動観測システムや施設点検による維持管理が継続されています。

委員会では、地すべり自動観測システムや防止施設を視察し、施設維持管理の現状や課題について説明を受けました。また、地すべり対策交付金の活用が有力であるとの説明もあり、本村における今後の維持管理の参考となる視察となりました。

大蔵村でも、昭和30年代から旧建設省による国直轄事業として地すべり対策が実施され、平成

27年秋に概成として山形県へ管理移管されています。しかし近年は豪雨災害や施設老朽化への対応が課題となっています。

さらに、日本工営株式会社の技術者とも意見交換を行い、集水井や水路等の腐食抑制技術について、今後の研究課題として交流を深めました。委員会では、今回得られた知見を本村の防災対策へ活かしていく考えです。



最上広域市町村圏事務組合

広域議員 早坂 民奈

3月24日に新庁舎において定例会を開き、補正予算、一般会計予算、特別会計予算、条例改正の10議案が可決承認され、2名の一般質問も行われた。

新庁舎で初めての議会であり、議員も執行部も心新たに臨んだ議会であった。

一般質問

坂本健太郎議員（新庄市）は施設管理経費の今後の見通し、①光熱水費の増加、②交流センターの改修事業費、③旧消防署と旧事務組合庁舎の解体・売却の3点について

答：①施設規模の拡大によるもの ②空調設備・屋根改修工事 ③消防庁舎は一部解体し新庄市へ無償貸与、組合庁舎は広域連合に無償貸与

鈴木啓太議員（新庄市）事務組合にハラスメント相談窓口が設置され運用上の課題については

答：設置する事が目的ではなく、安心して働ける環境を確保し、個別面談も行っているが特にない。

問：理事会より懲戒処分審査会、苦情処理委員会、苦情相談窓口の振り分けや協議の内容は。

答：懲戒処分審査会は懲戒処分が必要の判断を下す、苦情処理委員会は苦情処理窓口で判断がつかない時、弁護士に依頼。

5月19日臨時議会

1. 県衛星通信システム更新工事の繰越明許費の報告
2. エコプラザもがみダイオキシン発生抑制装置更新工事請負契約の締結
3. 監査委員条例の一部改正を可決承認
4. 大槌町の林野火災に4月24日から5月4日まで36人を派遣について報告

産業建設常任委員会

委員 佐藤 勝

日立市 株式会社カドワキを訪問して

3月11日、茨城県日立市にある株式会社『カドワキ』を訪問した。

村長も同行し、「カドワキ基金」に感謝の意を表し、会社の成り立ちや現在までの経過などの説明を受けた。

昭和39年日立市桜川に小さな会社を設立、その後、那珂・諏訪・佐和に工場を設立し、現在本社工場が完成、広大な工場の中で、従業員の全てが元気に楽しく自分の仕事に誇りを持って働いているのが、工場全体に感じられた。

主に自動車用の歯車やネジの製造が主流であるが、これが並外れた精密な技術を要する製品で、日本の自動車メーカーは勿論、マレーシア・中国などへの輸出も多く、経済産業省の「全国元気なもの作り企業」に選定され、更には、「旭日単光章」・「県知事表彰」・「厚生大臣表彰」・「日立市長表彰」など、多方面から強く公認されている。

少し昔を振り返って見よう。

創立者である門脇清美氏は、滝ノ沢の出身で、弟の政美氏（現会長）、豊牧出身の長南隆彦氏の3名で桜川に小さな工場を設立したのが現在の『カドワキ』である。

昭和39年と言えば、いわゆる「金の卵」世代の前で、この頃の田舎は、どの家も貧しく子供が5、6人は当たり前で、中学を出たら高校にも行かず、

実家の農業や炭焼きなどに精を出していた。しかし、いつまでも実家に住んでいることも出来ず、仕方なく都会に出ていくのが通常であった。私も同様に彼らと農業や炭焼きをした事が懐かしく思い出される。昭和39年と言えば「東京オリンピック」が開催された年で、高度経済成長期の始まりであり、この期を逃さず会社を設立した前会長の先見の明には敬意を表する。その後、兄弟や親戚、地元の人たちを採用して、従業員数107名で、茨城県でも有数な会社に成長しているが、更なる成長を願うものである。

先代の会長は度々私の家に来て酒を飲んでいたが、その口癖が素晴らしい『例えただの鉄であるが、それにも命がある、俺はその命を守り活かさなければならない』と誇らしげに言いながら酒を飲んでいる姿が懐かしく思い出される。



6年生19名の傍聴しての感想



大蔵村立大蔵小学校6年生19名が6月定例会議を傍聴してくださいました。
子ども達の意見や感想は、私達大人が村の未来について再確認させられるものばかりでした。
その素直な気持ちを私達議員も忘れずに大切にしていきたいです。

こや しすく
小屋 零

初めて議会を傍聴してみて、やはり村のために1人1人が真剣に話し合っている姿を見て、あこがれをもちました。理由は学校での「代表委員会」などでの話し合いの場では自分がもつ、イメージ像をもとにして、話し合っているんですが、なかなか自分の意見をはっきり言えないのに対し、議員の皆さんは自分の思っていることを自分の口ではっきりと言える姿にあこがれました。今日を通して、村長さんはじめたくさんの議員の皆さんに感謝したいです。これからは、自分の意見をしっかり口に出せる人になりたいと思いました。



まつだ ゆうり
松田 結梨

私は初めて村議会に入りました。教科書や動画などと全く同じだと思っていました。でも入って議会が始まってから、空気がピリピリしていて、見ていただけの私も緊張してしまうほどでした。私は、早坂議員さんが言っていた、新庁舎の見学ツアーがいいと思いました。なぜなら、準備は大変だと思うけど、ツアーなら楽しくできそうだし、小さい子も話を聞いてくれると思うし、新庁舎を迷わずに覚えられると思ったからです。新庁舎ができるのを楽しみにしています。

いとう りん
伊藤 凛

私は、一般質問が印象に残りました。なぜなら、何度も何度も疑問に感じたことを質問して話し合いがどんどん深いものになっていったからです。委員会にも取り入れようと思いました。勉強になったことは、村の代表はこんなに村民のことを考えて話し合いをしていたことです。質問の内容も「高齢者が利用しづらいんじゃないのですか」とか「お年寄りには〇〇で大丈夫ですか」とかこういう話し合いが私たちを支えているんだなと思いました。

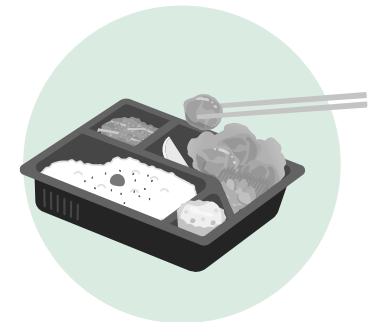


さいとう かほ
斉藤 華穂

議会の傍聴に行き、自分も委員会で話し合いをするけれど話し合いが止まる時がなく、スムーズにできているのが聞いてて、すごいなと思った。大変だと思った事は村だけのことでなく、他の県に実際に行って調査したりしてその結果を資料にまとめることです。新庁舎の話を聞き、ワクワクと喜びを感じられた。新庁舎が完成したら、友達と学習室などに行き、一緒に勉強をしたいと思いました。今日、議会の見学に行けて、また知識が増えました。

「議会とほっこり おしゃべりランチ」

住民の皆様は議会をより身近に感じていただくために、6月定例会にて「議会とほっこりおしゃべりランチ」を初開催しました。国分さん、松田与市さん、斉藤緑さんの3名が参加してくださり、「農産物価格」「村の子ども達」というテーマについて、少人数でざっくばらんに語り合いました。いつもと違い気楽に話せて、参加してよかったとの声を頂きました。こうした対話を通じ、今後もさらに開かれた議会を目指して参ります。



史上初 大蔵村議会ワールドカフェ初開催！ 「議員としゃべっぺムラトーク」

議員と住民が語り合う「議員としゃべっぺムラトーク」への参加者を募集します。お茶を飲みながら、村の未来や日頃の思いを気楽に話しましょう。

みんなでしゃべりたいことをしゃべろう！
お子様連れでもOK！中高生の参加もOK！

日時：7月12日(日) 13:30～15:00
会場：中央公民館 対象：村内在住・在勤者
申込：7月10日までに電話で
事務局(75-2111)へ





やました あさひ
山下 旦陽

人が大勢の前ですらすらと意見を言っていたのがすごいと思いました。自分は人の前で話す緊張するからです。議長が言っていることが難しかったです。だからこれから勉強したいです。ぜひブックカフェで飲めるドリンクは、ぼくたち子供でも払える値段にしてほしいです。村のことをとても大切に思っているのが伝わってきました。新しい役場楽しみです。

さとう こうた
佐藤 康太

議会を傍聴して感じたことは、村の地図で地区の説明とそれぞれの地区の歴史説明もあったらいいと考えました。また、電車が無い代わりにバスの便を増やし、ゆけむりラインの他にも新庄や肘折に行けるバスの便を増やして交通を便利にすれば新庁舎に行きやすくなる人が多くなって、より新庁舎に人が来れるようになると考えました。また人口が全てじゃないという言葉が印象に残りました。

さとう みお
佐藤 実桜

行ってみて、大人の話をしているのかと思ったけれど、自分たちにも身近なことを話していて、勉強になりました。スムーズに話し合っていて「自分たちとは全然ちがうな」と思いました。話し合いを「スムーズに進める方法を知りたいな」と思いました。人前で緊張せずにスラスラと質問に答えていた村長におどろきました。旧庁舎はどのようにしてかわれるのか、疑問に思いました。

いがらし
五十嵐 さら

人生で初めて議場に入ってみて感じた事がたくさんありました。1つ目は、イスや床、壁が豪華だということです。あんな豪華なイスを座ったことがなかったので緊張しました。2つ目は議員のみなさんがやさしいということです。最初は議員のみなさんはきびしいのかなとも思いつつ、議場に入るとやさしい笑顔のあいさつでむかえてくれました。でも議会が始まると議員のみなさんがすごく真剣でかっこ良かったです。自分もやる時はきちんとやり、あいさつの場はきちんとあいさつをしようと思えました。

ちょうなん みさと
長南 美里

初めて大蔵村議会を見て感じたことは、自分が会議に混ざっているってわけではないのにとっても緊張しました。教科書で見たのと似ている部屋でした。話を聞いていると子供たちの意見、お年寄りの意見を大事にしているすごいなと思いました。みんながいい生活ができるように、大蔵村議会の人達が一生懸命に取り組んでいたのもいい小学校にするためにがんばっていききたいです。役場が出来たら行ってみたいと思いました。

こばやし れお
小林 蓮生

議会に初めて入って大人同士でとても難しい話し合いをしていてもっと簡単に話し合いをしてほしいです。議会はとても難しい場所なのがありました。なぜ村議員は話し合いをしていなかったのか気になりました。新しい役場ができるのがとても楽しみです。完成したらブックカフェに行ってみたいです。地域産業の発展やイベント作りもがんばってください。

たかはし ねね
高橋 音心

私は行ってみて、みなさんが村のために、一生懸命に話していたのがすごいなと思いました。その中でも新しくできる役場について、村の特産物をおくことで大蔵村を知らない人も大蔵村の特産物を見たり、買ってみたりして、もっともっと大蔵村のことを知れるかと思いました。そのほかにも、みんなが要望する以上にここちよい場所を作ることによって一回来た人もまた次行きたくなるようなことを知れました。いろいろな子供から高齢者のことまで考えているのがすごかったです。

みはら ゆうと
三原 悠人

自分は議会を傍聴してみても緊張感がある場所でもしっかり話していても自分にはできない事だなと思いました。これからの新しい役場はできるだけいろんな人が楽しくすごせる役場になってほしいと思いました。これからは発言しないといけない時でも落ち着いて発言していきたいし、新しい役場ができた時は行ってみたいと思いました。

やはぎ りむ
矢作 莉夢

ぼくは議会を見せてもらって役場の人たちが議長や村議員が言ったことをすべてメモしていたのが心に残りました。疑問に思ったのは、なぜ月にやる計画じゃなくて年間でおこなうことを決めていたのかが疑問に思いました。11月に新しい役場が完成するのにこんなに早く計画しているところを見てこれからももっといろんなことをすると思いました。



おおたけ ももか
大竹 百華

私は、最初は、議会は簡単だと思っていたけれど、村議員の皆様と役場の皆様との話し合いは思っていた以上に、空気感がちがくて緊張しました。話し合いの内容が難しかったです。内容が難しく、聞き取れなかった部分もありました。難しい内容なのに話し合いが出来るのが、大人ってすごいとあらためて思いました。こんなに難しい話し合いを長く行うことが出来るのは村の事を思っているからじゃないかなと思いました。

こくぶん ここね
国分 心音

初めて議会に参加して、こんなにすぐに進むんだなと思いました。私たちが聞いた時は言うのが速かったし、難しい言葉を言っていて分からない時があったのに議会に参加している役員や村議員などの人たちは1回で理解してすぐに答えられるのがすごいと思いました。私は今日議会で話していたブックカフェなどに友達といっしょに行ってみたいです。内容は難しかったけど、あまり見れないのでまた見てみたいです。

すすき りこ
鈴木 璃子

始まる数分前から緊張しているようなかんじがものすごく伝わってきました。さまざまな意見がでてきて、その中に正反対な意見もあって、そこが議会の難しいところだなと思いました。新庁舎についての話し合いの内容を聞いて新庁舎が完成するワクワクした気持ちがよりいっそう高まりました。完成したら家族や友達と一緒に見にいきたいです。これからもいろいろな楽しいイベントがあるといいなと思いました。

ちょうなん だいご
長南 大悟

議会にいった瞬間村のいろいろな人たちを見て重いふんいきがあった。勉強になったことは、みんなの話し合いで、毎回議題を5個くらいにしばって話していて議題が1個で25分~40分くらいすることが分かった。そうして大蔵村の村民のために長時間かけて他の県の会社の防災技術を見て大蔵村にその技術を取り入れるようにしているのがすごいと思った。なぜ議会の時の席はなんでああいうならびなのか気になった。

かとう あかり
加藤 明莉

初めて議会に行って感じたことの1つ目は、言っていることがあまり分からないことです。話し合いが始まったら、言っていることが難しくあまり分かりませんでした。でも、それぐらい難しく大切な話なんだなと思いました。2つ目は、みんなの生活のために働いているということです。話し合いで防災やクマ、新しい役場のブックカフェなどみんなのためになることをいっぱい考えているのだなと感じました。

えちご もな
越後 萌菜

私が心にとったことは、いろいろなことをスムーズに話題にそって話していたことです。新しく作っている、大蔵村役場の話が一番心にとっています。役場にエレベーターがあることで高齢の方などのいろんな方まで利用できるのが、誰でも気軽に使えて良いと思いました。それと、左側にタイマーみたいなのがあって、時間になったらその音でスッと始める切り替えが早く、真似していきなと思いました。村の人たちの暮らしやすさを考えてくれていて、うれしいなと思いました。

村民インタビュー!!



一球入魂の思いを、次の世代へ

大蔵一球スポーツ少年団監督 小林 大輔さん

【一球誕生のきっかけ】

大蔵一球スポーツ少年団は、昭和54年4月に設立されました。初代監督は故・柿崎末蔵さん。当時は現在の翠明荘付近のグラウンドや河川敷を利用し、当時野球が盛んになってきた地域の中で「子どもたち



ちに野球をさせたい」という思いから活動が始まったそうです。「一球」という名前には、「一球一球を大切に」「一球入魂」という願いが込められています。

【現在の活動】

現在は17人の団員が活動し、村内だけでなく舟形町や新庄市から通う子どもたちもいます。近年は県大会で優勝し、全国大会や東北大会に出場するなど、輝かしい成績も残しています。一方で、4～6年生が13人に対し、1～3年生は4人と、少子化による団員不足という課題も抱えています。

【野球を通じて育てたいもの】

小林監督は「子どもの本質は昔も今も変わらない」と話します。ただ、周囲の環境や保護者の関わり方は変化していると感じるそうです。また「いじめは絶対に許さない」と伝え、うまくできない仲間を笑わず、お互いを思いやる心を大切に指導しています。また、挨拶や話の聞き方、言葉遣い、整理整頓など、

野球だけではなく人として成長することも重視しています。

【挑戦する心を大切に】

「まずはやる前から諦めないこと。そして、試合の緊張感や仲間と一緒に体を動かす楽しさを味わってほしい。」全国大会という大舞台を経験した子どもたちは、その経験を大きな自信へと変えているそうです。勝つ喜びも負ける悔しさも、すべてが成長につながっていると話してくれました。

【未来へつなぐ一球】

今後は県大会優勝を目標に掲げながら、体験会などを通じて仲間を増やしていきたいとのこと。しかし、少子化の影響で将来的には合同チームも視野に入れなければならない状況もあります。「運動を通して子どもたちに多くの経験をしてほしい。できなかったことができるようになる喜びや、仲間と一緒に頑張る楽しさを感じてほしい。そして、ぜひ一緒に全国大会を目指しましょう。」小林監督の言葉には、野球だけでなく、地域の未来を担う子どもたちへの深い愛情と期待が込められていました。これからもがんばれ、大蔵一球！



議会広報 常任委員会

委員	委員	副委員長	委員長
早坂民奈	佐藤勝彦	須藤敏彦	伊藤貴之



手伝いに来てくれた皆さんに植えられた苗が秋の棚田に黄金色の稲穂へと育つことを心から願っている。ありがとう。
来年も棚田に来てね。
(須藤敏彦)

時は流れ、現代はスマート農業と呼ばれ、田植機も無人で植える時代に。棚田は無理かな？

植え。

半世紀前は、親戚同士で「結」をし、一〇日以上も朝早くから夕方まで田

を探し、休む。

こまめに水分補給をし、一服は日陰

を。まだ体も暑さに慣れないうちから、

真夏のような強い日差しが照りつけ、

今年は、ひと味違う暑さの中での

田植えが始まり、気温三〇度前後。

人の数も倍以上になり、農作業も

活気が出てくる。

日頃から始まり、各家々に兄弟や親戚

の人たちが手伝いに来てくれる。

田植え、私の地区は五月中旬の土

あ
と
が
き